

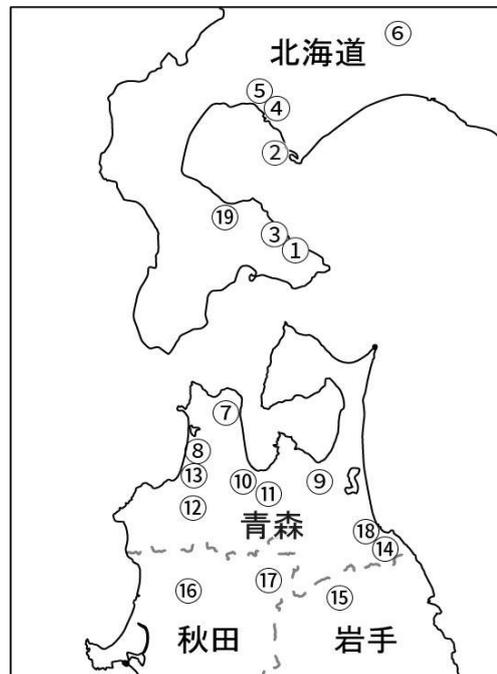
名称 北海道・北東北の縄文遺跡群
Jomon Prehistoric Sites in Northern Japan
区分 文化遺産
登録年 2021年
登録基準 (iii) (V)
所在地 ■北海道

函館市
伊達市
洞爺湖町
千歳市
森町

■青森県
外ヶ浜町
つがる市
七戸町
青森市
弘前市
八戸市

■岩手県
一戸町
■秋田県
北秋田市
鹿角市

- 構成資産
- ①垣ノ島遺跡（北海道 函館市）
 - ②北黄金貝塚（北海道 伊達市）
 - ③大船遺跡（北海道 函館市）
 - ④⑤入江・高砂貝塚（北海道 洞爺湖町）
 - ⑥キウス周堤墓群（北海道 千歳市）
 - ⑦大平山元遺跡（青森県 外ヶ浜町）
 - ⑧田小屋野貝塚（青森県 つがる市）
 - ⑨ニツ森貝塚（青森県 七戸町）
 - ⑩三内丸山遺跡（青森県 青森市）
 - ⑪小牧野遺跡（青森県 青森市）
 - ⑫大森勝山遺跡（青森県 弘前市）
 - ⑬亀ヶ岡石器時代遺跡（青森県 つがる市）
 - ⑭是川石器時代遺跡（青森県 八戸市）
 - ⑮御所野遺跡（岩手県 一戸町）
 - ⑯伊勢堂岱遺跡（秋田県 北秋田市）
 - ⑰大湯環状列石（秋田県 鹿角市）
- 関連資産
- ⑱長七谷地貝塚（青森県 八戸市）
 - ⑲鷲ノ木遺跡（北海道 森町）



丸数字は、構成資産のおおよその位置を示しています。

登録の理由 (iii) 北海道・北東北の縄文遺跡群は、1万年以上もの長期間継続した狩猟・漁労・採集を基盤とした、世界的にも稀な定住社会と、足形付土版、有名な遮光器土偶等の考古遺物や墓、捨て場、盛土、環状列石等の考古遺構で明らかのように、そこで育まれた精緻で複雑な精神文化を伝える類まれな物証である。

(V) 北海道・北東北の縄文遺跡群は、定住の開始からその後の発展、最終的な成熟に至るまでの、集落の定住の在り方と土地利用の顕著な見本である。縄文人は農耕社会に見られるように土地を大きく改変することなく、変化する気候に適応することで永続的な狩猟・漁労・採集の生活の在り方を維持した。食料を安定的に確保するため、サケが遡上し、捕獲できる河川の近くや汽水性の貝類を得やすい干潟近く、あるいはブナやクリの群生地など、集落の選地には多様性が見られた。それぞれの立地に応じて食料を獲得するための技術や道具類も発達した。

特徴 ・北海道、青森県、岩手県、秋田県の1道3県にまたがるシリアル・ノミネーション・サイトである。

・以下の4つの価値が示されている。

- a) 自然資源をうまく利用した生活のあり方を示すこと
- b) 祭祀・儀礼を通じた精緻で複雑な精神性を示すこと
- c) 集落の立地と生業との関係が多様であること
- d) 集落形態の変遷を示すこと

・縄文時代（約1万5,000年前～約2,400年前）を、定住のⅠ開始期、Ⅱ発展期、Ⅲ成熟期のステージに区分（各ステージをさらにa前半とb後半に細分）し、それらの時代のありようを示すのが各構成資産である。

例えば、大平山元遺跡は、Ⅰ定住の開始期の前半、居住地の形成の時代を示す遺跡である。

各ステージと構成資産の関連については、下記サイト「定住の6つのステージ」を参照のこと

<https://jomon-japan.jp/learn/jomon-prehistoric-sites-in-northern-japan>

・三内丸山遺跡（青森県 青森市）と大湯環状列石（秋田県）は、国の特別史跡に指定されている。三内丸山遺跡（特別史跡指定 2000(平成12)年11月24日）、大湯環状列石（特別史跡指定 1956(昭和31)年7月19日）

三内丸山遺跡（青森県）は約5,900年前～4,200年前の縄文時代の集落跡 日本最大の縄文集落跡（東京ドーム約9個分）

大湯環状列石（秋田県）には、万座環状列石（最大径52メートル）と野中堂環状列石（最大径44メートル）の二つの環状列石がある。両者の中心を結ぶ直線は夏至の日没方向とほぼ一致する。

大平山元遺跡（青森県）では、紀元前13,000年頃のものとして、現在のところ北東アジア最古級とされる土器片が見ついている。

亀ヶ岡石器時代遺跡は、遮光器土偶の出土で知られる（最寄り駅であるJR五能線木造駅の駅舎は遮光器土偶の形で有名）

・鷲ノ木遺跡（北海道）と長七谷地貝塚（青森県）は、縄文遺跡として顕著な価値を有しており、縄文遺跡群と関連が深く、一体的に保存活用を図っていく資産である「関連資産」とされている。両資産は、もともと構成資産とされる予定であったが、2015年12月の縄文遺跡群世界遺産登録推進本部にて、対象から外された。

世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群 公式サイト

<https://jomon-japan.jp/>